

平成29年度国際観光専門学校名古屋校自己点検・評価報告書

1. 学校の教育目標

3つの教育理念:「人間教育」・「実践教育」・「国際人教育」

3つの信頼の獲得:「学生」・「保護者と出身校」・「社会」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 平成31年度生を見据えた募集学科体制構築。
 - * 新校舎移転計画は、名古屋校にとっては命運を賭けた一大事業であることを肝に銘じ、学びの内容や施設・設備等について綿密な計画を・・・
- 2) イベント参加者数の回復(450名以上)と、歩留率40%以上の追及。
 - * 歩留率が改善された28年度。29年度はイベント増員に向けた発信力強化。
- 3) 出席率管理及び進級・卒業考査の見直し。
 - * 進級・卒業考査の厳格化（学科履修要領記載通りの運用を図る）
- 4) 外国人留学生の日本語能力を高める。
- 5) 校内美化を継続して推進する。
 - * まず、整理整頓から
- 6) 働き方改革
 - * すべての業務を見直し、無理・ムダを無くする。

3. 評価基準

適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
4	3	2	1

4. 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
・学校における職業教育の特色は何か	4
・社会経済のニーズ等をふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

① 課題

学校の理念・目的などを保護者や留学生にどのように周知をするか。

② 今後の改善方策

昨年に引き続き、体験入学、ホテル見学、ワールドフェスティバルなどの場で学校の理念をお伝えする。

③ 特記事項

(2) 学校運営

評価項目	評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
・人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
・情報システム化による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

情報システム化はソフト面での経費検討事項もあり、最小限の業務効率化に留まっている。

② 今後の改善方策

数年先の情報システム化に備え、対応できる環境作りを整える。

③ 特記事項

(3) 教育活動

評価項目	評価
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
・関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
・資格取得に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
・関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

日々進化する先端的な知識・技能等を修得するため研修や、教員の指導力育成など資質向上のための取組みを継続する。

② 今後の改善方策

昨年に引き続き、現場・現業の体験学習を行っていく。

③ 特記事項

(4) 学修成果

評価項目	評価
・就職率の向上が図られているか	4
・資格取得率の向上が図られているか	3
・退学率の低減が図られているか	3
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

昨年に引き続き、担任、キャリアカウンセラー、心理カウンセラーを配置して退学率低減に取り組んだが、成果が得られなかった。

② 今後の改善方策

学生との面談回数を増やし、早期予防することにより退学者を減少させる。
明確なビジョンが提示できるように取り組む

③ 特記事項

(5) 学生支援

評価項目	評価
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
・学生相談に関する体制は整備されているか	4
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
・学生の生活環境への支援は行われているか	3
・保護者と適切に連携しているか	4
・卒業生への支援体制はあるか	3
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

卒業生への支援体制が整っておらず、卒業後の把握が難しい。

② 今後の改善方策

卒業生ネットワークの構築に取り組む。

③ 特記事項

(6) 教育環境

評価項目	評価
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
・防災に対する体制は整備されているか	3

① 課題

3つの教育理念の中の実践教育の充実。

② 今後の改善方策

インターンシップ先の拡充に取り組む。

③ 特記事項

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価
・学生募集活動は、適正に行われているか	4
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
・学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

各種広報イベントの総動員数が増加に至らなかった。

② 今後の改善方策

学校知名度向上のための発信力を強化する。
(Web対策)

③ 特記事項

(8) 財務

評価項目	評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるのか	3
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
・財務について会計監査が適正に行われているか	4
・財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

昨年に引き続き、安定的な授業料収入が確保できる体制を作り上げる。

② 今後の改善方策

留学生募集に尽力しながら、邦人募集にも力を入れる。

③ 特記事項

安定的な授業料収入を確保するとともに、予算の有効活用を図る。

(9) 法令等の遵守

評価項目	評価
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
・自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

情報セキュリティの充実。

② 今後の改善方策

引き続き、職員研修の場を設け個人情報管理のあり方を再確認する。

③ 特記事項

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

高校のキャリア教育実施にあたり、本学が高校とホテルとの間で仲介役となり、研修プランの策定・実施に協力している。また、中学生のキャリア教育については、学校見学を受け入れて専門学校の概況を解説している。

(11) 国際交流(必要に応じて)

評価項目	評価
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

昨年に引き続き、国際交流を深めるため、日本語学校へ出張講義を行う。

5. 重点目標達成に関する自己評価

1) 平成31年度生を見据えた募集学科体制構築。

- * 新校舎移転計画は、名古屋校にとっては命運を賭けた一大事業であることを肝に銘じ、学びの内容や施設・設備等について綿密な計画を・・・

・18歳以下の人口減少に対応するため既存の学科を残し、留学生を多く獲得するよう広報計画を変更した。引き続き募集学科体制を行っていく。

2) イベント参加者数の回復(450名以上)と、歩留率40%以上の追及。

- * 歩留率が改善された28年度。29年度はイベント増員に向けた発信力強化。

・イベント増員数が若干目標に達しなかったが、歩留率が前年度(36%)より5%上がった。

3) 出席率管理及び進級・卒業考査の見直し。

- * 進級・卒業考査の厳格化（学科履修要領記載通りの運用を図る）

・進級・卒業考査に対するの説明を学生に行い、厳格に臨み学生指導も行った。

4) 外国人留学生の日本語能力を高める。

・外国人留学生の日本語能力を高めるため、授業科目と資格取得科目以外でも留学生が興味をわく授業科目を用意し、また講師を増やした。

5) 校内美化を継続して推進する。

- * まず、整理整頓から

・整理整頓を指導したが、徹底できなかった。

・殺風景な玄関を季節ごとにディスプレイすることで、校内美化を行った。

6) 働き方改革

- * すべての業務を見直し、無理・ムダを無くする。

・効率的な業務見直しを少しずつ行った結果、以前より振替休日を取得できるようになった。

・まだまだ改善の余地があるので、見直しを行わなければならない。